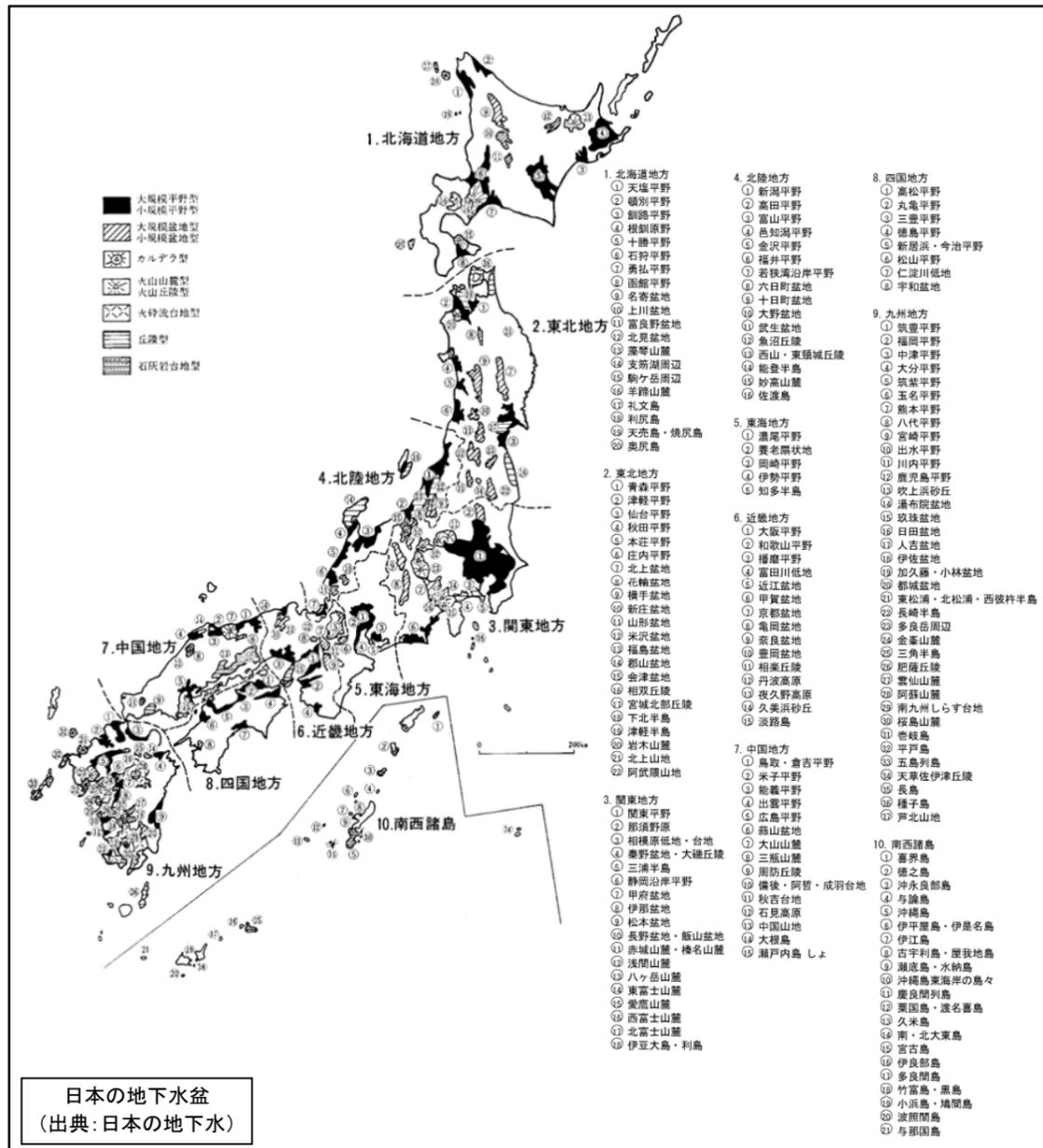
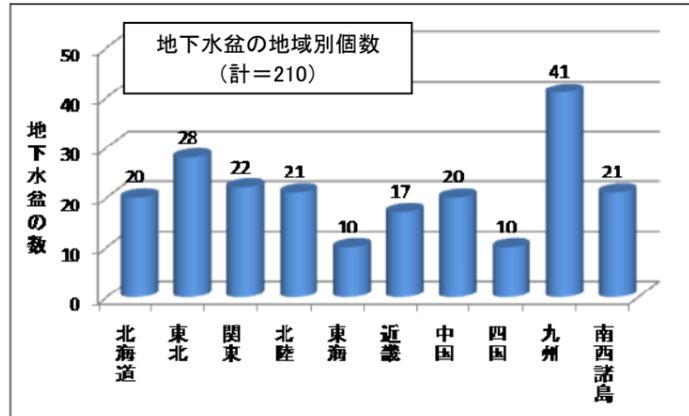


我が国における地下水盆の概要

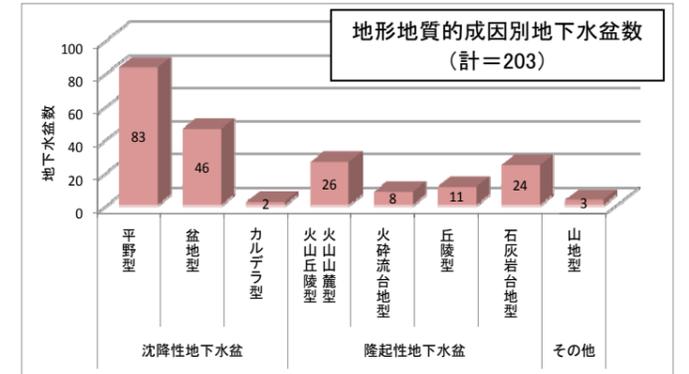
我が国における地下水盆

「日本の地下水」及び「地下水要覧」によれば、我が国には210の地下水盆が存在する。地域別の個数は右図の通りで、九州地方の地下水盆数が突出して多い。九州地方には大規模平野が少なく、小規模な沖積平野や盆地が多数存在するためと考えられる。

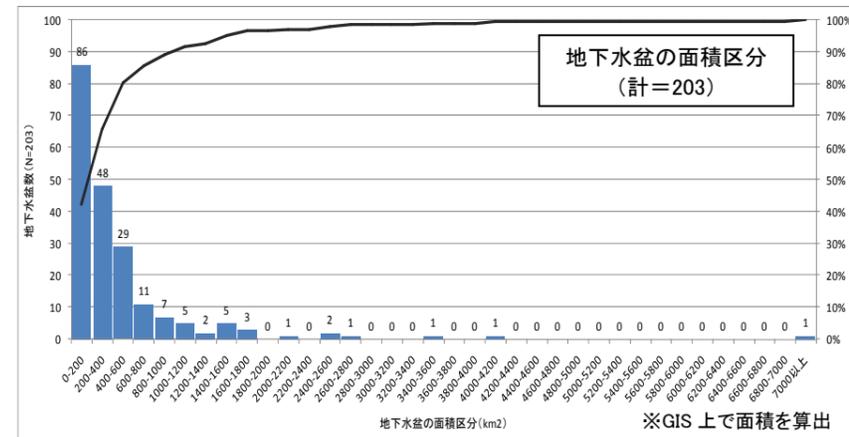


地形地質的成因からみた地下水盆の類型

「日本の地下水」で区分されている地形地質的成因ごとの地下水盆数を整理した。83 (全体の41%) の地下水盆が平野型に該当し、46 (同23%) の地下水盆が盆地型であった。カルデラ型は中国地方の三瓶山麓と九州の阿蘇山麓のみであった。火砕流台地型は北海道地方及び九州地方に限定的にみられ、石灰岩台地型は中国地方の秋吉台地等3つの地下水盆を除くと、南西諸島のみであった。



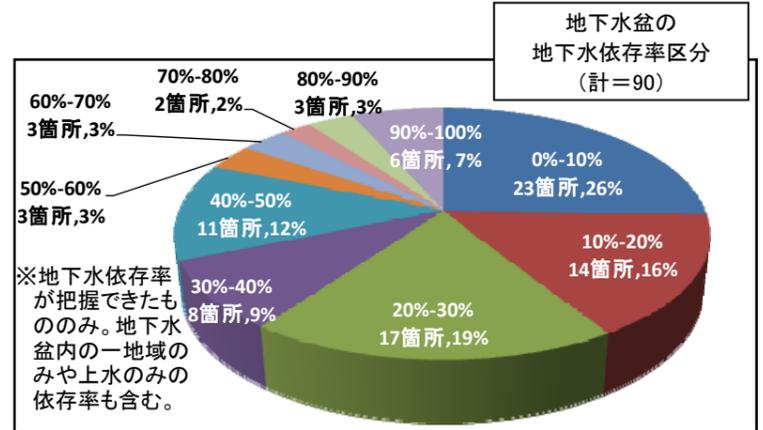
地下水盆の面積



我が国では面積の大きい地下水盆は少なく、小さい地下水盆が非常に多い。全地下水盆の約80%は面積600km²以下で、中間値は200km²~400km²の範囲にあたる。1,800km²を超える地下水盆は、石狩平野、備後・阿哲・成羽台地、仙台平野北部、根釧原野、南九州しらす台地、十勝平野、関東平野の7つに限られる。

地下水盆ごとの地下水依存率

年間使用水量(水利用全体)のうち、地下水が占める割合を「地下水依存率」という。地下水盆ごとの地下水依存率をみると、10%未満の地下水盆が最も多く、23の地下水盆(全体の26%)が該当した。次いで20%以上30%未満の地下水依存率を有する地下水盆が17箇所(同19%)、10%以上20%未満の地下水盆が14箇所(同16%)と続いた。地下水依存率が30%未満の地下水盆が全体の約6割を占めた。一方で地下水依存率90%以上の地下水盆は、那賀川下流、熊本平野(阿蘇山麓を含む)、大野盆地、倉吉平野、都城盆地、伊佐盆地の6つが該当した。



注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。